

健康寿命という言葉もある。

男性の場合は70歳だそうである。80歳まで、人に迷惑をかけずに生きる自信がない。いまから女房子どもがわたしを吐る声が聞こえる。嫌だなあ。女の平均寿命は90歳だそうである。それを知ってからの家内には、余裕が漂っているような気がしてならない。しかし、年寄りの冷や水と僻みはいけな。男は死ぬまで半ズボン。

志岐は懐かしくなる島である。志岐の海には緊張感が漂っているようであった。隠岐の海にも緊張感が漂っている。国境が近い緊張感なのかもしれない。志岐と隠岐は響きもよく似ている。岐は分岐点の意味もある。

懐かしくなる志岐

五島列島から志岐まで、やはり長崎県は広い。

志岐には、活発な旅館の女将さんがいた。平山旅館の女将である。筑豊から嫁いで来たらしい。車で志岐空港まで迎えに来てくれる。猿岩やはらほけ地蔵を案内してくれる。猿岩は海を

眺めている猿によく似た岩である。ここで夕日をバックに家内と写真を撮った。はらほけ地蔵は海女漁で有名な八幡浦海中に祀られている六地蔵である。終生の苦思を救う6体のお地蔵さんは満潮時には海に浸かる。は

お供え物は海に流されない。夜はご主人が潜って採って来たウニやアワビ、サザエのごちそうである。この席で「元寇」に纏わる話を聞いた。「義経11シンギス汗」

のフビライに鎌倉幕府への復讐を託したという説である。荒唐無稽ではあるが、興味はそそられた。舞台劇「元寇」の公演で志岐を訪れたのは1997(平成9)年10月のことである。志岐では勝本文化センターと志岐文化ホールでの2公演であった。志岐から鎌倉芸術館まで26ステージのキャラバン公演である。2公演ともすごいにぎわいであった。ただ、志岐の文化には長崎というよりは福岡を感じた。「元寇」の主題歌「人恋し」はわたしが作詞して、さだまさしさんに作曲をしていた。志岐は「イキ帰る」という。また、訪ねたものである。(松浦市出身)

らほけとは、おなかに穴が開いているの意味である。貫通はしていないから、満潮になっても

が北へ逃れて大陸へ渡った。義経はシンギス汗(チンギスハン)となりモンゴル帝国を興し、孫



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。